

将来社会創造アプローチの展開(2) —市民との対話による構想立案—

日 時 : 2010 年 10 月 4 日 (月) 13:00-16:45
会 場 : 文京シビックセンター 26 階 スカイホール
都営地下鉄三田線 春日駅 (徒歩 3 分)、
都営地下鉄大江戸線 春日駅 (徒歩 3 分)、
東京メトロ丸の内線 後樂園駅 (徒歩 3 分)、
東京メトロ南北線 後樂園駅 (徒歩 3 分)

主 催 : 横幹技術協議会、横幹連合

参 加 費 : **横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料。**

当日資料費 : 1,000 円 (希望者のみ費用は当日申し受けます)

【上記以外】一般 5,000 円 (資料代込)

参加申込 : 【事前登録】オンライン申込 http://www.trasti.jp/cgi-bin/forum_28_1.cgi?step=1
又は、下記の参加申込書にご記入のうえ、fax、電子メールにてお申し込みください。
(氏名、所属、連絡先 **Email**、**TEL** 等をご明記ください。)

【当日申込】当日直接、受付へお越しください。

(定員に達した場合、HPにて受付終了をお知らせします)

【企画趣旨】

新しい資源エネルギー態勢の模索と移行、新興国経済の劇的な躍進、文化・経済の世界的な緊密化など、激動する事業環境にあって、将来社会の構想力が強く問われている。前回のフォーラムでは、未来構想の立案が具体的にどのように実践されているかを観た。今回は、未来は人々の中にあると捉え、人々との対話の方法論と取組み状況をレビューする。社会的期待をどのように掴むかは、これからの科学技術の新たな方向である課題解決型イノベーションの起点でもある。

【プログラム】

		(敬称略)
		総合司会: 山本 修一郎 (名古屋大学 教授)
13:00-13:05	開会にあたって	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:05-14:05	◆ 講演 1 対話のシステム方法論—状況とステークホルダーの多様性への多元的アプローチ	高橋 真吾 (早稲田大学 教授) 田原 敬一郎 (未来工研 研究員)
14:05-14:45	◆ 講演 2 IT分野におけるリスクコミュニケーション支援ツールの開発とその展開	佐々木 良一 (東京電機大学 教授 内閣官房情報セキュリティ補佐官)
14:45-15:25	◆ 講演 3 専門家と市民の協同による 21 世紀型問題解決デザイン: 科学技術コミュニケーションのための参加型アプローチ	菱山 玲子 (早稲田大学 准教授)
15:25-15:55	◆ 講演 4 経済産業省におけるオープンガバメントの取組みについて	守谷 学 (経済産業省 商務情報政策局情報プロジェクト室 室長補佐)
	(15:55-16:05 休憩)	
16:05-16:40	◆ 総合討論	司会: 山本 修一郎 (名古屋大学 教授)
16:40-16:45	閉会にあたって	館 暲 (慶応義塾大学 教授)

将来社会創造アプローチの展開(2) —市民との対話による構想立案—

2010 年 10 月 4 日 (月) 13:00-16:45 (文京シビックセンター26 階 スカイホール)

【講演要旨】

(敬称略)

講演1

「対話のシステム方法論—状況とステークホルダーの多様性への多元的アプローチ」

◆ 高橋 真吾(早稲田大学 教授)・田原 敬一郎(未来工研 研究員)

対話には多様な要因がある。対話の目的、参加者の特性、利害関係など多様性の源泉も複雑である。本講演では、こうした複雑な要因が関係する対話をシステムとしてとらえ、政策形成過程等で利用された対話手法の実例をいくつかひきながら、その特性を考える手がかりとしてのシステム方法論について、状況と参加者＝ステークホルダーの多様性への多元的アプローチの観点から述べる。

講演2

「IT 分野におけるリスクコミュニケーション支援ツールの開発とその展開」

◆ 佐々木 良一(東京電機大学 教授 内閣官房情報セキュリティ補佐官)

社会の IT システムへの依存度の増大に伴い、種々のリスクやコストを考慮しつつ、のぞましい対策案の組み合わせに関する意思決定関与者間の合意形成を効率的に支援するツールの必要性が高まっている。本講演では講演者らがこのために開発した「多重リスクコミュニケーター (MRC)」と、その組織内合意形成問題への適用結果ならびに、参加者が数千人を超える社会的合意形成問題への適用のための MRC の拡張構想について述べる。

講演3

「専門家と市民の協同による 21 世紀型問題解決デザイン：科学技術コミュニケーションのための参加型アプローチ」

◆ 菱山 玲子(早稲田大学 准教授)

情報科学分野で蓄積されてきたシミュレーションやゲームにおけるロールプレイを組み合わせ、参加者の目線を通して問題の本質に接近しようというユニークな試みが盛んになっている。この手法は、気候変動や資源問題、政治経済システムの制度疲労など、多元的な課題やリスクに直面する現代社会において、その本質を解き明かし、解決への具体策を考えるための有力な手段となり得る。複雑化する問題に対応し、多様な分野で蓄積されてきた専門知と人々の日常の暮らしに埋め込まれている生活知 (ローカルナレッジ) を結集する 21 世紀型の新しい問題解決パラダイムの構築を、事例を通して紹介する。

講演4

「経済産業省におけるオープンガバメントの取り組みについて」

◆ 守谷 学(経済産業省 商務情報政策局情報プロジェクト室 室長補佐)

近年、世界各国では、インターネットの効果性を活用することで、積極的な政府情報の公開や、行政への市民参加を促進する、オープンガバメントが進んでいる。本講演では、昨年度から今年度にかけて複数回実施している「アイデアボックス」の取り組みや、統計情報利活用のための情報提供基盤の開発など、経済産業省が取り組んでいる我が国最先端のオープンガバメントの取り組みについて紹介する。

<第28回横幹技術フォーラム 申込書>

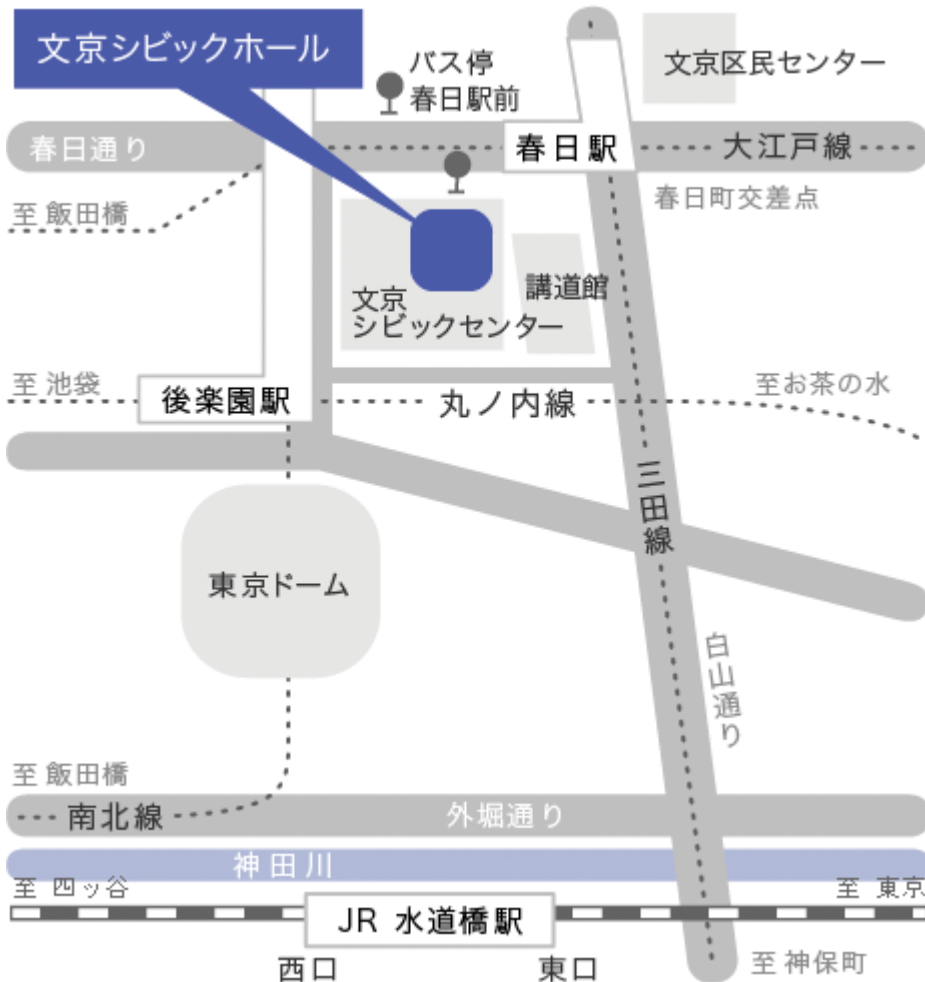
1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

交通案内



シビックホール所在地：〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-21

問い合わせ：03-5803-1100 (財)文京アカデミー施設管理係